松川町農業振興会議　会議録

日時：令和３年 12 月 22 日（水）PM2：00～3：45
場所：農村観光交流センター　みらい

出席者
　松川町農業委員会の代表２名、みなみ信州農業協同組合の代表２名
　生産者組織の代表７名（１名欠）、女性農業者の代表３名

事務局
　南信州農業農村支援センター　木下倫信　ＪＡ松川支所営農課課長　坂巻　勲
　町産業観光課長　田中学
　農業振興係　宮島公香・小沢香織・松尾凌・佐藤光吉・下平隆司・佐藤広利
　農林係　米山敏・宮澤風香　建設水道課長　原高広　農地整備係　後藤正雄

進行　田中課長
開会：田中課長
1. 挨拶：松下敏章会長
　昨年、今年とコロナの影響が強くあり、若干落ち着いたと思ったら、また新しい株が出てきて県外でも感染者が増えてきている。これからも注意が必要と感じている。みらいは 2009 年に立ち上がり、現在課長の田中さんがセンター長でスタートした。営農支援センターの運営委員会として会議を行っていたが、数年前から農業振興会議として変わってきた。今日はいくつも協議事項ありますが、ご検討いただければと思います。

2. 協議事項
進行：松下会長
（1）令和３年度の営農支援センター事業報告及び令和４年度に向けて
　1.　農業従事者・農地面積・遊休農地の推移　　宮島
　2.　各種補助金について（農業支援・農地整備）　　宮島・後藤
　8.　人農地プランの実質化について　　宮島

～　各団体からの活動及び課題・提案事項などの報告～
法人協会理事　中平義則
　法人協会では、県との懇談会があり、地域と密接に協力し合って、産地を維持していこう。地域の雇用や就農者の育成に務めましょうという方針で進めていきます。
　１点情報提供ですが、凍霜害の影響が多くある。伊那の伊那食品と協力し、研究

開発して、霜剤を開発しました。SS に寒天の粉（ノズルやフィルター等が詰まらないように開発された）と廃糖蜜を混ぜ、果樹に散布し、つぼみや幹にゼリーの膜を作るイメージ。凝固点温度を下げる効果があります。今年普及センターに依頼し試験した結果、かなり有効な効果が得られた。来年の３月を目途に普及させたいと動いている。燃焼剤や、霜ガード、フロストバスターなどで 1,000ℓを散布しようとすると、高額が必要だし、扱いが難しいといったことがあるが、低価格で、使いやすく、リスクの少ないものを使用したい。寒天も蜜も安全な資材（口に入れても良いもの）。1 セットで 3500 円くらい。500ℓが散布できる。1000ℓを散布したい場合は 2 セット。霜防止の一つの選択肢としてもらえればと思う。

Q　それは、霜の降りる前日にまけばよいのか。

霜予報を役場の防災無線で 3 時ころに流してくれるが、それを聞いて散布した。耐久性は、雨が降らなければかなり持ちますが、花のステージが朝と夕ではだいぶ進みますので、霜が予想される前日に散布するのが良いと思う。マイナス 4 度を下回る状況の中、中心花への影響 0%くらいの状態で抑えられた。撒いてないところは 40%くらいの着果量、蒔いたところは 90%～95%の着果量で、まったく問題ない状態でした。また、粘着力があるので、花粉の付きが良くなり、受粉率も上がるといったメリットもある。

Q　実際の販売はどうするのか。

受注生産にしようかと思っているが、年明け、JA の資材さんへ話に行き、そこへ置いてもらえるようにしたいと考えている。チラシを配って注文をとるか、はっきり決まっていない。気軽に買える場所があるといいかと思っている。

Q　町の農技連で試験的に使ってみるのはどうか。

町　農技連で検討します。

町で霜対策の資材の補助を出していると思うが、こういったものも対象にしてもらえればと思う。

農業士協会理事　大島崇

農業者が減っていると話があったが、農業士協会も会員が減少している。新規農業士募集している。農業士のメリットが伝えづらいが、底上げしていかない農業が衰退してしまうと思うので、興味のある方はお声がけください。

Q　農業士の条件は？

就農してから 2 年以上県の実施する講座を受け、技術を身に着け、小諸の試験場で合宿などがあった。今は合庁などで実施する。学んで自分の経営計画を立てて、提出する。資格ではないが。農業士の上に経営者協会があり、農業者がしっかり経営できるように勉強して切磋琢磨する場。

Q　農業士と認定農業者の違いは？

農業士は県下の仲間がいます。認定農業者は町内。

認定農業者　関悟司

認定農業者では夏に視察に行きました。ヘーゼルナッツを見てきました。遊休農地にそれを植え、消毒も必要ないと聞いたし、収穫できたものを加工して販売できるのではないか。何本か購入した。1 本 5000 円の苗だが。今回視察に行った皆さんで 1 人数本を購入した。様子を見てみるのも良い。

JA　坂巻課長

1 日農業バイトの利用状況報告。町内の登録農家 11 件。そのうち 3 件がサイトを利用し、マッチングした。

JA　古瀬支所長

公務員の兼業ということで日本農業新聞に掲載された内容を紹介します。特産品の栽培を地域全体で支えるために、公務員、地元の企業の社員の方に兼業、副業できるように働きかけが行われています。JA では、市田柿の支援に職員が出動しています。地域を挙げて基幹産業を支える取り組みを参考にしたい。一緒に考えていきたい。

くだもの観光協会会長　奥村孝吉

2 年間、コロナによって観光は非常に大打撃を受けています。さくらんぼ狩りは団体を受け入れてきたが、まったく受け入れできなかった。疲弊しています。くだもの観光協会自体は団体受入から、個人の受け入れに舵を切ったりしている。さくらんぼは施設投資がかかるが、団体を受け入れられないのは将来の見通しが非常に苦しい。地球温暖化でフジに影響が出ている。着色不良、味の悪さ、高度不足、2030 年にはフジは消えるだろうと予測されているが、それがはっきり出てきている。作目、品種の研究をする中で次の品目を設定する必要があると思う。新規就農者や後継者にもそういったことを伝えられるように考えてもらいたい。商業のほうでは経営コンサルタントがいるが、農業に特化したコンサルタントを置くように、人材育成するかどこかから連れてきてほしい。後継就農して切り替える際にはしっかりした営農計画が必要。コンサルタントがいれば相談し、新たな取り組みができると考えている。

事務局　後ほど、お伝えしたいと思っていますが、農業法人の立ち上げを検討の中で、そういった中にコンサルタントがいるのは良いと思いました。

新規就農者への支援でいうと、支援農家さんに教えていただいている。地域とのつながりも出てきている。そちらは継続していきたい。

農業女性ネットワーク会長　北沢ひろみ

ネットワーク内の団体が減ってしまい、3 グループしかない。活動が活発にできない状態ではあるが、漬物講座、視察等を行なっている。現在、農業女子の皆さんに組織化して、若い力を発揮してもらい、仲間として参加していただきたい。

農業委員会　会長代理　北林秀昭

遊休農地対策としてサツマイモを作り、焼酎を作り販売をする活動をしてきたが、ここ数年は有機農業の取り組みを行ってきた。資料にあるように遊休農地の面積が拡大する中、微力ではありますが、解消に向けた取り組みを拡大したいと考えています。

JA 理事　木下稔

農協は組合員のみな様から成り立っていますが、コロナの関係で会議も開けず、皆さんにお伝えする機会が減っています。2 月には会議を予定している。経営ということもありますが、皆様に身近に感じていただける農協を目指していきたいと思います。

松川ファーマーズクラブ会長　水野耕一郎

最近は加入者が少ないのですが、農協の組織という力を活かして栽培に特化した、おいしい、品質の良いものを安定的に栽培できる勉強の機会がないが、会員の中で切磋琢磨している。今年、褐斑の被害があったが、MFC では独自の防除暦を作り、それでしっかりやった人には被害が出ていない。来年も異常気象なので、参考にしていただけたらと思います。

若武者会長　生澤淳始

若武者は今年 20 週年を迎えました。記念事業を行っています。県外からのお客様が望めない中、地元の人に知ってもらう機会をつくるとして、清流苑を会場としてマルシェを行いました。将来につなげるいろんな意見が聞けて良かった。お金がかかりました。協力いただけるところにお願いしていきたいと思います。

認定農業者会長　関悟司

法人化という話が出たが、法人が表とすると裏が個人だと思う。個人の対策、例えば、退職して百姓を始める人への支援が少ないのではないかと感じる。小さくやってしっかり儲けている農家が増えれば、遊休農地も減るのではないかと思う。

農業士協会理事　大島崇

夏以降、交流会をしていますが、オンラインでできるようになった。気軽に加入してもらえると思う。現在、強化研修を行っている。親からの継承はしたが、何となく事業をしている人もいて、品目の選定や販売方法を見つめなおすといった研修会を行っている。事業自体は 40 万円くらいかかる研修会に参加できる。興味のある方に声をかけてもらえれば。県内で人が集まるので、懇親会で話がしたいなというのが今の悩み。

くだもの観光協会会長　奥村孝吉

くだ観では面白い取り組みを行っている。学びの旅、小中学生の体験学習を積極的に受けようと進めてきました。観光バスが減る中、バスを受け入れる環境はあり、新たな取り組みとして、通常のリンゴ狩りの金額の＋アルファで農業の苦労や魅力を伝える取り組みになっている。今年度は 7 校、約 600 名が参加してくれた。商工会とも連携し、コシ部精密での体験等もあった。南木曽中の先生から松川町の 2 日間の体験で、体験旅行を考えるきっかけとなったといただきました。今までは臨海学校に行っていたが、体験旅行に振り替える検討をしていると連絡いただいた。ほかの学校からはキャリア教育では人に会いに行くことが大切になっていて、今回の企画はありがたいと声をいただいています。子供たちの教育という現場の中で、私たちも学ば差せていただく、良い機会でした。今年は県内のみでしたが、来年は県外への学校へ伸ばしていきたい。

JA 女性部長　下村幸江

フードドライブ（家庭に余っている食べ物を学校や職場に持ち寄り、地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動）に力を入れ、お米の消費が少ないことから、消費に役立てばと、1 人 1 合から持ち寄り、集まったものを社協へ届けることができました。JA 常勤役員の皆さんと話をした際、若い方が JA 女性部の会員になってくれないことが問題になっており、何ができるか、話し合った。若い方に寄り添って関係を築くためにスマホ利用を教えてもらうことも話しあわれた。

農村女性マイスター会長　宮澤千文

参加させていただき、松川町にこのような会があると知って、素晴らしいなと感じた。マイスターには何十年ぶりに参加した。70 代がやるより、若い人につなげていきたい。どうしたら若い人が出てきてくれるかと思ったら、お嫁さんがいないことが原因。問題を解決する方法をこんな会議で考えてほしい。1 月 31 日、北小で柿のお料理を教える予定。コロナの影響で花の収入も少なかった。アレンジフラワー教室を計画している。リモートでの会議を進めてきた。来年は人が合える会にしていきたい。

松下会長

行政の場合、縦割りの事業が多いが、産業観光課だけでなく、建設水道課も出席いただいたことが良かった。

農業農村支援センター　木下係長

皆さんの活動を聞きまして、松川町の地域振興に思いを寄せて活動されていてよいと思います。普及センターも来年の計画を立てる時期になっています。検討を

始めています。松川町は梨の一大産地でしたが、年々減少してきています。産地として残していきたいと農技連の皆さんに協力いただきながら梨のジョイント栽培の研修会等を行なっています。もんぱの問題、苗の問題がありますが、協力いただきながらやっていきたい。天空のしずく、新品種の苗木も販売されています。そういったことに絡めながら進めていきたい。それから、褐斑病の影響が近年ありますが、北信のデータしかなく、それで防除の計画が立てられていますが、南信農業試験場ではなしと柿に特化してやっていましたが、来年は試験場を巻き込んで、松川町の圃場で、褐斑病の発生状況について試験を行うことにしました。500mと 800mの状況を 3 月 7 日から設置し、初発がいつなのかという調査をしていきます。トップジンの散布時期を示せるようにしたい。

3. 担い手育成事業について（新規就農者支援・果樹研修制度） 佐藤（広）
4. 各種団体支援について
（認定農業者・畜産協議会・若武者・ 小沢・松尾
人と自然にやさしい農業連絡会、女性グループ等）
5. 農業技術支援について（農技連・労働力確保） 小沢・松尾
6. グリーンツーリズムについて 松尾
7. 農地の賃貸借・売買事業について 佐藤（光）

8. 人農地プランの実質化について 宮島
9. 有機農業産地づくり推進事業について 宮島
10. 農業法人の立ち上げについて 宮島

閉会：北沢副会長

世間が変わり、地球環境が変わり、農業を取り巻く環境がめまぐるしく変わってきています。異常気象はもはや異常気象ではなく、環境が変わらないのであれば、自分たちが変わるしかない。奥村さんや中平さんの発明のようにアンテナを高くして農業をしていきたいと思います。